

郡山市環境審議会委員からの意見に対する回答

委員名	意見	回答
難波謙二 会長	11月22日に開催された審議会で委員からは、当日の答申書原案に対して多くの意見が出されました。当日の注文点や意見が、全体の整合性等も考慮しながら、最大限反映され、よりよい案となったと思います。	(回答不要)
會田久仁子 副会長	答申書見直し作成おつかれさまでございます。異議ございません。	(回答不要)
高橋敦司委員	審議会での審議内容がよく反映されていると思います。	(回答不要)
橋本健委員	<p>(4) 生活環境の保全と改善について 自動車業界に携わる者として一言ご意見申し上げます。 「環境負荷の少ない次世代自動車の普及、公共交通機関の利用促進など自動車からの有害化学物質の排出抑制対策・・・」</p> <p>業界として水素、電気、ハイブリット等選択肢があり、先ずは2030年に向けて迷うところであり、行先不透明とも言えます。</p> <p>公共交通機関について、いまだに黒い排気ガスを出して走るバス等、市中では目にします。最近の新車については、排気ガス対策は、十分に行われており、問題は古い車を走らせていることが、有害物質をまき散らす原因となっていると考えます。</p> <p>公共機関の車両、公共施設で使用している車両等は、大丈夫でしょうか。予算などの問題もありますが、国、県、市をあげて対策に乗り出さなければ解決出来ないのでは無いでしょうか。</p>	<p>国においては令和3年10月22日に閣議決定された「地球温暖化対策計画」、県においては令和3年12月に改定された次期「福島県地球温暖化対策推進計画」において、次世代自動車や電動車等の率先導入を掲げております。</p> <p>本市でも「郡山市気候変動対策総合戦略」にて、市の率先行動として「公用車の次世代自動車への更新」を掲げていることから、公用車を更新する際は率先して次世代自動車を選択してまいります。</p>
古谷博秀委員	適切な追記、修正をいただいていると思います。	(回答不要)

松枝智之委員	<p>会議録 P5 湯浅委員の改善意見等「地域循環共生圏」についての定義、体制、定義の具現性が、反映されていない（そもそも審議未了につき不承認）</p>	<p>会議録 P5 湯浅委員の発言ですが、これは答申書（案）ではなく計画の素案に対する御意見※であることから素案作成の参考とさせていただきます。</p> <p>※湯浅委員に御発言の内容について確認しております。</p>
三浦吉則委員	特になし	(回答不要)
湯浅大郎委員	<p>11月22日に開催された令和3年度第3回郡山市環境審議会の審議内容を踏まえた追記・訂正等が行われており、現時点で郡山市長に提出する適切な答申書になっていると考えます。</p> <p>本答申内容に真摯に取り組み、環境施策を推進・実現することにより、本市が全国レベルでの環境先進都市となることを期待します。</p>	(回答不要)